

1 事業名 さんべ夢ステージ

2 必要性

子ども・若者育成支援推進大綱「子ども・若者ビジョン」（平成22年7月）には「子ども・若者が、社会とのかかわりを自覚しつつ、自尊感情や自己肯定感をはぐくみ、自立した個人としての自己を確立するとともに、社会との関係では、適応するのみならず、自らの力で未来の社会をよりよいものに変えていく力を身に付けることができるよう、健やかな成長・発達を支援します。」とある。また、重点課題として「子ども・若者が生き生きと、幸せに生きていく力を身につけるための取組」で、「子ども・若者が成長・発達するために基礎づくりを支援します。（中略）様々な体験や他者との交流を積み重ねることにより、自立した個人として必要な知識、能力、社会性やリーダーシップなどをはぐくみます。」とある。

本事業は、すべての青年が様々な体験や交流を通してリーダーシップを身につけ、人間関係能力を育成することをめざしており、青少年教育の推進 拠点としての国立青少年教育施設が先進的かつ継続的に取り組むべき事業である。

3 趣 旨

主体的に社会に参画しようとしている青年が共生社会を築いていくことをねらいとしている。「リーダーシップ」と「人間関係能力」をキーワードに、事業の企画から運営までの様々な体験を通して、リーダーとして必要な資質の向上を図り、交流活動や体験活動を通して人間関係能力を身に付け、地域や社会に積極的に貢献できる人材の育成をめざす。

4 後 援

島根県教育委員会、島根大学、島根県立大学、松江工業高等専門学校

5 期 日

①企画力・運営力アップセミナー編

7月6日（金）～ 7月8日（日）（2泊3日）

②想いを形にする編

8月23日（木）～ 8月24日（金）（1泊2日）（その1）

9月13日（木）～ 9月14日（金）（1泊2日）（その2）

10月12日（金）～ 10月14日（日）（2泊3日）（その3）

③夢が現実になる本番編

10月26日（金）～ 10月28日（日）（2泊3日）

6 参加者

(1) 募集対象・人数 大学生(短期・専門学校を含む)、社会人

①企画力・運営力アップセミナー編 20名

②想いを形にする編（その1～その3） 60名（延べ）

③夢が現実になる本番編 20名

(2) 参加人数

①企画力・運営力アップセミナー編 14名

②想いを形にする編（その1～その3） 56名（延べ）

③夢が現実になる本番編 41名

(3) 参加者分析

①企画力・運営力アップセミナー編

島根大学教育学部から11名と島根県立大学浜田キャンパスから2名の参加があった。また、社会人男性1名（島根県新任教職員研修会）の参加もあった。平成24年度は、本事業を経験している2・3回生より1回生の参加が多くみられた。

②想いを形にする編（その1～その3）

その1では、島根大学教育学部の学生12名と島根県立大学出雲キャンパスの学生4名が参加した。企画力・運営力アップセミナー編に引き続き参加する学生が見られた。

その2では、島根大学教育学部の学生16名と島根県立大学出雲キャンパス3名の参加があった。継続的に参加する学生が増える中、県大生も継続して参加する学生が見られた。

その3では、島根大学教育学部の学生19名と島根県立大学出雲キャンパス2名の参加があり、男子学生の継続的な参加が見られた。

③夢が現実になる本番編

島根大学教育学部の学生29名と島根県立大学出雲キャンパス12名の参加があった。男女比からすると男子学生の参加は少ないが、1・2回生の男子学生が継続して参加している。また、本番編のみに他の学生に誘われて参加した学生や、これまでに「さんべ夢ステージ」に参加した経験のある学生の参加があった。

7 参加経費

① 3,000円

② 2,000円（その1・2）

3,000円（その3）

③ 1,500円



ステージでのオープニング

8 講師

①企画力・運営力アップセミナー編

文教大学人間科学部 専任講師 青山 鉄兵 氏

9 事業内容

(1) 事業の特色

本事業は、3編シリーズとなっている。①編は企画・運営についての学びを活かし、企画の骨格を作成する過程。②編は、企画を具体化・実現化していく過程。③編は、「さ

んべ祭」で実際に企画を発表する過程となっており、地域社会と関わるができる。

(2) 企画のポイント

①編では、企画・運営を行う上で重要なポイントを基礎から学ぶために講師を招き、体験的に学習できるようにワークショップの手法を用いたグループワーク形式の場を設定した。②編では、コミュニケーション能力・合意形成能力・問題解決能力を身につけ、企画を練り上げるためにグループ内で多くの情報を整理・集約をする場を設定した。

③編では①・②編で学んだ成果を発表する場や、青年に連帯感を味わわせる場として設定した。また、本事業全体を通して、人と人との関わりを学ぶより良い人間関係構築の場として設定した。

(3) 広報のポイント

島根県内の各大学では、学生が地域ボランティア活動に参加することを大学として評価するとともに、積極的に支援を行っている。(島根大学：1000 時間体験学修・ビビットカード、島根県立大学：キャンパスマイレージ事業) また、大学ではボランティア募集を整理して学生に情報提供している。当施設職員が各大学で行われているボランティア説明会に出向き、平成 23 年度のボランティア活動の様子を映像で流したりして、年間の活動予定一覧のチラシを配布し学生にわかりやすく説明した。また、同級生や先輩ボランティアが、学生同士のネットワークを通じて勧誘等を積極的に行った。

(4) 日程

①企画力・運営力アップセミナー編

| | | | | | | | |
|------------|-------|--------|-------|-------------------------------------|-------|----|-------|
| 7/6 (金) | 20:30 | | 21:00 | | 22:00 | | 23:00 |
| | 受付 | オープニング | 講義 | 「自分の実現したいことを社会に発信しよう」 ～昨年度の事例から～ | | 入浴 | 就寝 |

| | | | | | | | | | |
|------------|-----------------|---------------------------|--------|--------------------------|---------------|---------------------------|--|----------|-------|
| 7/7 (土) | 6:30 | 9:00 | 12:00 | | 13:00 | 17:10 | | 19:00 | 21:00 |
| | 起つ朝 ど 床い食 | 講義 「企画するって どういうこと？」 | 昼 食 | 講義 「やりたいことを カタチに！」 | つ夕 ど い食 | 講習 「アクションプランを つくろう」 | | 入就 浴寝 | |

| | | | | | | | | |
|------------|-----------------|----------------------------|--------|---|-------|--------|--|--------|
| 7/8 (日) | 6:30 | 9:00 | 12:00 | | 13:00 | 15:00 | | 16:00 |
| | 起つ朝 ど 床い食 | 実習 「アクションプラン の発表・評価」 | 昼 食 | 実習 「アクションプランの作成」 講義・演習 「ボランティア活動の意義」 「青少年教育施設のボランティア」 | | クロージング | | 解 散 |

②想いを形にする編

(その1)

| | | | | | | |
|-------------|-------|--|-----------------------------------|-----|----------|-------|
| 8/23 (木) | 13:00 | | 17:00 | | 20:00 | 21:00 |
| | 受付 | オープニング 実習①「アイスペイクを学ぼう」 実習②「みんなが笑顔になる軽スポーツ」 | 実習③ 「学びのある野外炊飯」 ～ダッチオープン料理～ | 交流会 | 入就 浴寝 | |

| | | | | | |
|-------------|-----------------|---------------------------|--------|--------------------------|--------|
| 8/24 (金) | 6:30 | 9:00 | 12:00 | 13:00 | 15:00 |
| | 起つ朝 ど 床い食 | 実習④ 「夢ステージ企画の 話し合い」 | 昼 食 | クロージング ふりかえり わかちあい | 解 散 |

(その2)

| | | | | | | |
|-------------|-------|-------------------------|---------------------------|---------------|---------------------------|----------|
| 9/13 (木) | 13:00 | | 13:30 | 17:10 19:00 | | 21:00 |
| | 受付 | オープニング 「ねらいの共有」 他 | 実習① 「夢ステージ企画の 話し合い」 | つ夕 ど い食 | 実習② 「夢ステージ企 画の話し合い」 | 入就 浴寝 |

| | | | | | | |
|-------------|-----------------|----------------------------|--------|---------------------------|--------------------------|--------|
| 9/14 (金) | 6:30 | 9:00 | 12:00 | 13:00 | 14:00 | 15:00 |
| | 起つ朝 ど 床い食 | 実習③ 「夢ステージ企画の提 示・説明」 | 昼 食 | 実習④ 「夢ステージ企 画の話し合い」 | クロージング ふりかえり わかちあい | 解 散 |

(その3)

| | | | | | | |
|--------------|-------|--|-------------------------------------|--------|--------|-------|
| 10/12 (金) | 20:30 | | 21:00 | 22:00 | | 23:00 |
| | 受付 | | オープニング 実習①「夢ステージ企画の話し 合い・準備①」 | 入 浴 | 就 寝 | |

| | | | | | | | |
|--------------|-----------------|-------------------------------|--------|-------------------------------|---------------|-------------------------------|----------|
| 10/13 (土) | 6:30 | 9:00 | 12:00 | 13:00 | 17:10 | 19:00 | 21:00 |
| | 起つ朝 ど 床い食 | 実習② 「夢ステージ企画の話 し合い・準備②」 | 昼 食 | 実習③ 「夢ステージ企画の話 し合い・準備③」 | つ夕 ど い食 | 実習④ 「夢ステージ企画の話 し合い・準備④」 | 入就 浴寝 |

| | | | | | | |
|--------------|-----------------|-------------------------------|--------|-------------------------------|--------|--------|
| 10/14 (日) | 6:30 | 9:00 | 12:00 | 13:00 | 15:00 | 16:00 |
| | 起つ朝 ど 床い食 | 実習⑤ 「夢ステージ企画の話し合い・ 準備⑤」 | 昼 食 | 実習⑥ 「夢ステージ企画の 話し合い・準備⑥」 | クロージング | 解 散 |

③夢が現実になる本番編

| | | | | | | |
|--------------|-------|--|----------------------|--------|--------|-------|
| 10/26 (金) | 20:30 | | 21:00 | 22:00 | | 23:00 |
| | 受付 | | オープニング 「企画運営の準備①」 | 入 浴 | 就 寝 | |

| | | | | | | | | | |
|--------------|--------|-------------|-------------|---------------------------|--------------------|-------------|-------------------------------------|--------|--------|
| | 6:30 | 9:00 | 11:00 | 16:00 | 17:30 | 19:00 | 21:00 | | |
| 10/27 (土) | 起 床 | つ ど い | 朝 食 ② | 「企画運 営の準備 「さんべ祭本番①」 | 後片付け 明日の準備 等 | 夕 食 憩 | 休 今日のふりかえり 「企画運営の準備③」 交流会等 | 入 浴 | 就 寝 |

| | | | | | | |
|--------------|--------|--------|-----------|-------|--------|--------|
| | 6:30 | 9:00 | 14:30 | 15:00 | 16:30 | |
| 10/28 (日) | 起 床 | 朝 食 | 「さんべ祭本番②」 | 後片付け | クロージング | 解 散 |

(5) 運営のポイント

実践を通してこの企画力・運営力の2つのスキルがアップできるようにプログラムの構成を図った。また、荒天時には計画した場所で企画を行うことができないので、代替の企画を考えさせた。企画し準備してきたことを柔軟に対応することができ、状況にあわせて実際の活動を具現できるように職員はサポートをした。

また、目的を正しく理解し方向を見失わないように事前の話し合いや確認・活動のふりかえりを設定し支援した。そのふりかえりが単なる反省会で終わることがないように、「継続したい点」を共有し、ふりかえりを通して仲間が成長でき、既成のプロセスや活動スタイルに独自の特色がもてるようにした。

(6) 安全管理のポイント

朝・夕のつどい等で健康状態を確認するとともに、ゆとりのある活動内容を心がけた。また、それぞれの活動において、各グループが活動時間に応じて随時休憩がとれるように配慮した。また、「さんべ祭」参加者の安全にも配慮するように指導した。特に、「さんべで秋染め」では染料液が沸騰しているため、参加者が活動中に火傷をしないように事前に体験をし、染める行程の確認及び用具のチェックを行った。

(7) 実施状況

①企画力・運営力アップセミナー編

講師に文教大学人間科学部青山鉄兵専任講師を招き、企画・運営に関する基本的な事項を、ワークショップを通して体験的に学ばせた。②編から具体的に企画を進めるため、本事業のテーマを決め、目的・ねらいを明確にし、企画で作り出したい具体的な行動や場面を考え、そのためにどのような工夫や情報が必要かを考えさせた。



②想いを形にする編

当日に行うこと・起こりうることを想定しながら打ち合わせをし、実体験からの計画の見直しや、運営のポイントを探った。また、企画内容を参加者に知らせるためにポスターやチラシの作成・準備も行った。



アイディアの整理



企画のプレゼンテーション

③夢が実現になる本番編

開催初日は天候にも恵まれ、各企画も予定通り実施することができた。しかし、2日目は雨天のため、屋外での企画は場所を変更して屋内での実施になった。事前に天気予報などの情報を活用することにより、前夜から企画変更の準備を行うことができた。来場者の要求にも臨機応変に適切に対応することができ、多くの来場者に企画を楽しんでもらうことができ、学生は達成感を味わうことができた。



来場者の受付



ワイワイ広場

さんべ夢ステージ企画内容

| 企画名称 | 企画内容 |
|--------------------|--|
| 絆・繋がる・結び合う (ステージ班) | 劇とレクリエーションを通して人との繋がりの大切さをステージで演じる。ステージの司会進行を行う。 |
| 島根っ子クイズ (クイズ班) | 6つのブースを設定し、各ブースで島根県に関するクイズに答えて、より島根県についての知識を深める。 |

| | |
|-----------------------------|--|
| みんなでかつごう！さんべのみこし！ (みこし班) | 多くの来場者にみこしをかついで、人とつながりや輪を広げる。みこしをかついでいる姿を記念撮影する。 |
|-----------------------------|--|

| | |
|--------------------------|---|
| さんべで秋染め (秋染め班) | さんべの秋の素材を使ってオリジナルコースターやハンカチを作り、三瓶の自然に親しむ。 |
| 暴れまわれ！さんべワイワイ広場 (広場班) | 三瓶の自然や良さを感じてもらうために、屋外で飛行機飛ばしや、木の実での当て・自然の中でカモフラージュを探す自然体験活動を行う。 |

(8) アンケートの満足度・振り返りの主な記述

①企画力・運営力アップセミナー編

- ・企画力が少しだけついたと思う。
- ・自分たちが考える時間がたくさんあってよく考えられた。
- ・青山先生の新しい発想に驚いた。
- ・色々な人と話が出来てよかった。
- ・青山先生の話はためになり、学ぶことが多い研修になった。

②想いを形にする編

(その1)

- ・どのプログラムも意図がはっきりしていたので、多くのことが身について良かった。
- ・人間関係づくりから、企画力アップを図る話し合いまでの過程が段階を踏んでいて良かった。
- ・今まで参加したものより多くのことを学び、多くの人と関わったので本当に満足している。
- ・これからの社会に必要な事が多くて、参考になった。
毎回、どのプログラムも新しい発見ができるので、自分の成長を実感できる。

(その2)

- ・企画を考えることの大変さを改めて感じた。
- ・自分でどうしたらいいかを考える事が出来たのでよかった。
- ・段々と実現に向けて進む感じが良かった。
- ・企画力もあがり、よかった。

(その3)

- ・一人一人がしっかり考えをもてるシステムだと思った。
- ・自分達で考えて動く機会が多くもてるような指導をしてくださった。
- ・自分の考えが企画にきちんと反映されやすかったので、やりやすかった。
- ・自分の得意とすることが、みんなの役に立てて良かったと思う。

③本番編

- ・他の人と交流をすることで、新しい視野が広がった。
- ・自分の成長を感じた。
- ・学校ではできない体験ができた。
- ・みんなが協力しないと出来ないプログラムでよかった。
- ・今回初めて参加したが、自分の改善しなければならないことを見つけることが出来た。また、他の人と交流することにより、視野が広がった。また、とても楽しかった。来年も是非参加したい。
- ・4回参加して色々学べた。さんべ祭が成功して良かった。ありがとうございました。

1.0 成果と今後の課題

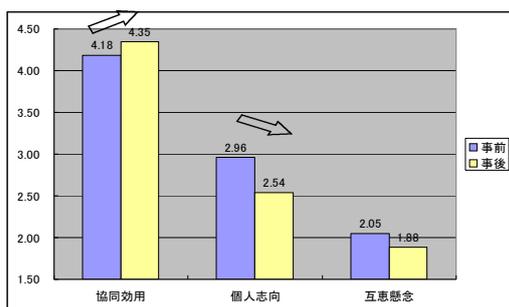
【成果】

「さんべ夢ステージ」に参加した青年に対して事業の教育効果を測定するために「協同作業認識尺度」および「日常生活スキル尺度（大学生版）」を用いて検証を行った。比較群として「さんべ祭」当日ボランティアにも同様の調査を行い比較を行った。

まず、参加した青年が他者と協同で作業することをどのように認識しているかを明らかにするために「協同作業認識尺度」を用いて検証を行った。協同作業認識を表す各因子得点についてt検定（活動前・活動後）を行った。その結果、「さんべ夢ステージ」群の協同効用得点に有意差がみられ、活動前から活動後にかけて得点が増加した。また、個人志向得点にも有意差が認められ活動前から活動後にかけて得点が減少した。「さんべ祭」群の個人志向得点には有意差が認められ活動前から活動後にかけて得点が減少したが協同効用得点には有意差がみられなかった。（図1）（図2）

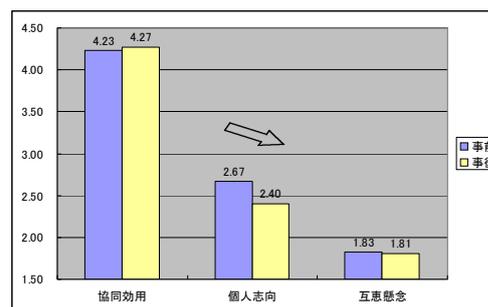
共同作業認識尺度

さんべ夢ステージ群



(図1)

さんべ祭群



(図2)

* ⇨ (活動前から活動後にかけて有意差が認められた因子群)

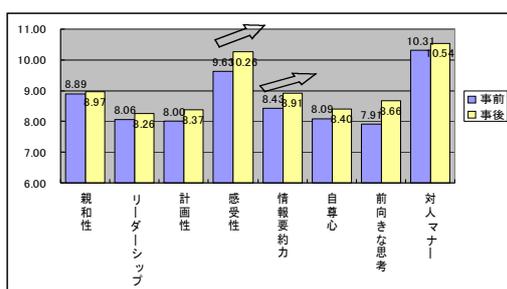
本事業は班員を構成し、作業を進める場を多く設定した。その結果、班で作業を進めたためグループ全体の利益を求めて活動することにより、メンバー相互の交流の質を高

め、個々が積極的に活動に貢献することができた。青年の主体性を生かした協同作業が効果的で、個人作業と比較して作業成果が向上した。

次に、参加した青年のライフスキル（社会的スキル）の変容を明らかにするために「日常生活スキル尺度（大学生版）」を用いて検証を行った。日常生活スキルを表す各因子得点についてt検定（活動前・活動後）を行った。その結果、「さんべ夢ステージ」群の感受性得点、情報要約力得点および前向きな思考得点に有意差が見られ、活動前から活動後にかけて得点が増加した。（図3）（図4）

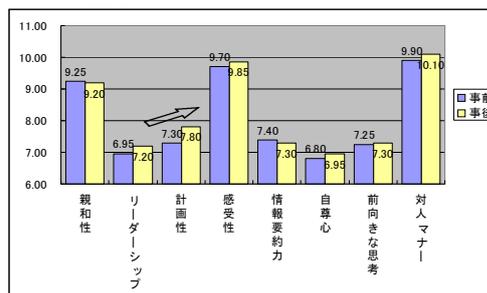
日常生活スキル

さんべ夢ステージ群



（図3）

さんべ祭群



（図4）

* ⇨ （活動前から活動後にかけて有意差が認められた因子群）

青年が協同作業中に会話や行動を通して、相手の立場や気持ちを理解し、相手の状態に対応した行動や良好なコミュニケーションを築くことで感受性が高まったと考えられる。また、多くの情報から必要な情報を選択・決案する活動の中で、計画的に企画・運営を行う力を身に付けられた。

本事業は、継続7年目となり流れも定着してきている。本事業を経験した青年は、学んだ知識や技能を生かし、事業未経験者のサポート役になったりして、リーダー性が養われてきている。また、青年たちは施設職員とは違った視点から新しい課題を見つけ、当施設に新しい発想を提案するなど創造力を発揮した。その発想が、施設運営や事業の実施に新たな工夫をもたらし、当施設がより多くの利用者に親しまれ、利用者に喜ばれるきっかけをつくった。本事業の活動は、青少年教育施設と地域の人々との結びつきを一層深め、当施設の活性化につながった。

【課題】

情報の提供・参加条件の整備

学生の参加者を更に広めるために、情報の提供、ネットワークの構築や、学生が容易に参加できる条件を整備・提供する必要がある。本事業が、4ヶ月間の長期間の事業のため、参加者のモチベーションが維持しにくい。また、全5回の事業のために継続的な参加が難しい面がみられるため、学生たちが学内で容易に情報交換ができるように、大学と連携が必要となる。

安全対策及び施設の特徴を知る研修

青年に安全教育を提供し、青年および来場者が安心して活動に参加できる事業の企画・運営が大切である。当施設でのプログラムを体験し、活動内容によって知識や技能が必要になってくるため、活動を行う会場の特徴や活動に必要な用具等の準備・使い方の研修を行う必要がある。

1 1 普及計画・普及実績

事業内容及び成果については当施設ホームページで紹介する。また、青少年教育施設や大学等へ事業紹介の場を積極的に設定し、事業の成果の普及に努める。

(担当 藤田 守弘)